

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100090		
法人名	有限会社ヴァントーズ		
事業所名	グループホーム ヴィエント		
所在地	矢板市片岡1174-2		
自己評価作成日	平成26年1月22日	評価結果市町村受理日	平成26年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成26年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご自分に合ったペースで自分らしく家庭的な生活を安心して送っていただけるように、温かい心で寄り添いながら支援に努めさせていただきます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」生活の支援をする、という理念を実現するために、職員は入居者一人ひとりのペースに合わせて、その人なりのできることを共に行い、暮らしが楽しくなるよう支えている。計画的な機能訓練は実施していないが、職員が筋力の落ちてきた入居者に「モップ掛け」の役割を発案し、無理のない範囲でやってもらっている。入居者は掃除の手伝いをするということで生活に“張り”を感じ、体力維持の効果も上がっている。多くのボランティアが訪問し、将棋の有段者の相手をしたり、マジックや踊りを披露して、入居者の楽しみを作っている。入居者の誕生日には、赤飯やいなりなどその人の好物を昼食のメニューに取り入れて皆でお祝いをしている。また、移動販売のラーメンを食べるなど趣向を凝らすことや、入居者が鬼おろしで大根をおろしたり大豆の皮むきを手伝って郷土料理である「しもつかれ」を作るなど、食を楽しむ取組みをしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目立つところに貼っていつも初心を忘れないようにして介護にあたっている	「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」生活の支援をする、という理念を実現するために、職員は入居者一人ひとりのペースに合わせ、また、その人なりのできることを共にいき、暮らしが楽しくなるよう支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と近所を散歩したり、夏祭りには近隣の方に参加していただいたり、草刈をしていただいている	併設事業所と共同で開催する夏祭りは、毎年工夫を加えながら一大イベントとして定着している。入居者と共に、騒音等のお詫びかたがたお知らせのチラシを配布することにより、近隣から好意的に受け取られ、駐車場や草刈りの協力を得られている。また、子どもを含めた近所の参加者も増えている。	事業所が夏祭りなどを通して地域の人々のつながりを作るきっかけになっている意義は大きいと思われるので、今後とも地域に働きかけて、頼りになる事業所として発展していただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々に来ていただいて交流している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣の方々やご家族様、行政の方へ出席して頂いて意見を聞いてサービス向上に活かしている	運営推進会議には前自治会長および現自治会長、民生委員も参加しているので、地域の高齢者の状況やボランティアの情報を得ることができる。多種・多数のボランティアとの関係を築くことができ、入居者の楽しみを増やしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いたり、こちらから出向いて協力関係を築くよう努力している	運営推進会議には市の担当者と市直営の地域包括支援センター職員が必ず参加しており、利用の空き情報とか地区の情報、感染症の流行状況などを伝えてもらい、事業所運営に役立っている。市職員も参加する地域のグループホームの連絡会では、困難事例の研修を行ったり、市への要望書を出したりするなどの積極的な活動を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒などのリスクはありますが、スタッフの努力で拘束しないで危険を回避しているように努力している	転倒リスクが高い入居者や夜間目覚め起き上がる入居者について、特に見守りを強化して身体拘束しない介護を実施している。また、夜間起きることの多い入居者の布団に鈴を付けることによって、いち早く状況を確認できるような工夫もしている。帰宅願望が強い場合には一緒に散歩に行つて気を紛らわすようにして、行動を制限したり、施錠したりしないようにしている。	

グループホーム ヴィエント

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所ごとに勉強会を開いて参加して虐待の防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターと連携して学ぶ機会を持ち取り組む姿勢を持って支援に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をするように心掛けていてご家族に理解してもらえるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来た時などに意見を聴くようにしている	入居者の様子は電話で家族に知らせたり、受診介助で訪れたときに話している。家族からの提案や苦情は特にないが、家族の希望により、利用料の支払いを口座引き落としでもできるようにした。家族の希望でなるべく睡眠導入剤を使わないようにして状況が改善した例もあり、家族からの要望や希望をできるだけ汲み取るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を開いて、施設長にも同席して頂いて話し合いをしている	職員からは業務改善の提案や入居者の生活を豊かにするための行事等の提案が活発に出ている。職員の休憩がうまくとれないことが多いので、休憩時間を確保する取り決めをしたり、浴室の手すりの増設が行われたりした。今後作られる中庭のウッドデッキの利用方法なども提案が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聴いたり、努力している実績や勤務状況を把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの個性や努力を認めて、ケアマネの研修等に参加している。事業所間交流会を毎月行い交代にて参加している		

グループホーム ヴィエント

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	矢板市内の事業所連絡会・研修会・交流会に参加している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に不安を抱かないようにあらかじめご本人様にお会いして、心をほぐすように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り細かく説明し納得していただけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入所させる時の家族様の不安が強くないよう、またご本人様にとって最良の支援につながるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	月に1回以上の外出をするよう心掛けている。また一緒に散歩に行ったり、食事の準備を一緒にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かある時には連絡して来て頂いたり、ご本人様に面会にも積極的に来られている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	制限は全くしていないのでいつでも会える環境だが、ご家族様以外の方はほとんどみえない	家族がホームを訪れることはあるが、友人知人の訪問はほとんどない。その分、ホーム内での入居者同士の関係を良好に保つよう努めている。併設の小規模多機能事業所の利用者だった入居者はとどき元の利用施設を訪れてカラオケに興じたりして交流を続けている。また、月1回、ホームのリビングを模様替えしてオープン喫茶を開店し、家族や併設事業所の利用者にも参加を呼び掛けていつもと違う雰囲気の間を設定し、交流の機会を設けている。	

グループホーム ヴィエント

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で親しく話ができるよう席の場所など環境づくりに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度退居された方が再度入居されたという実績がある。入院された方や他施設に入所された方の様子を見に行くよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活なので難しい面もありますが出来るだけご本人様の意向に寄り添い希望に添えるように努めている	職員は入居者一人ひとりの希望やできることの実現を望んでおり、実施に向けて工夫や努力をしている。将棋の有段者の対戦相手として定期的に将棋ボランティアに来てもらったり、洗濯たたみや食事の手伝いなどその人なりにできることを見つけてやってもらったり、食べたいものを把握して外食に行ったりして、できるだけ生活を楽しんでもらうようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	歌が好きな方、時代劇の好きな方達や将棋が得意な方にはボランティアの方達に来てもらうなど工夫している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	散歩をする方、カレンダー作成する方や野菜の皮むきや洗濯たたみ、モップ掛けなど能力に応じてその力が発揮できるように支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会に来た時や病院受診時に同席するなどを行い、より良く暮らすための課題とケアのあり方を検討している	ケアマネージャーは入居者が体力を維持し、一日をゆっくり楽しく過ごすにはどうすればいいか、入居者や家族の目線で考え、介護計画を立てている。ケアマネージャーが入居者の受診時に同席したり、退院後入居を希望する場合は病院のソーシャルワーカーとも情報交換し、月々の定例会では職員全員が入居者個々の状況を話し合い、モニタリングや計画の策定・見直しに役立っている。	

グループホーム ヴィエント

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には気づきや出来事や工夫した事などを書きとめる努力をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の能力、体調などに対して支援していきけるよう話し合い、ゲームや体操などを取り入れている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	道の駅に利用者様と出掛けたり、さつき展などにも出掛けて見学したりして楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時に同席させてもらったりして、かかりつけ医との連携を行って入居者様の健康の管理や維持に努めている	かかりつけ医への受診は、原則として家族に介助を依頼している。病状に変化があった場合など、ケアマネージャーや管理者が診察に同席して、かかりつけ医と直接意見交換するなど連携に努めるとともに家族も含めて情報共有が図られている。また必要に応じて文書によりかかりつけ医に意見を求めることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	あかとんぼの看護師に依頼して入居者様の異変や変調等に対応してその後の受診につなげるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院際に情報を提供したり、退院時に拡大カンファレンスを実施して頂いたり看護サマリーを頂き関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の支援は困難ではありますが、家族様の思いを共有して出来る限りの支援をしていけるよう取り組んだり、看取りをしている施設への紹介等の説明をし支援に取り組んでいる	現在は、入居者が重度化し医療の必要性が増した場合は、かかりつけ医と相談して入院等の措置を採ってもらう方針である。入居時にケアマネージャーや管理者が家族に方針について説明するとともに、病状に変化があった場合には随時家族に連絡して、情報の共有を図っている。	

グループホーム ヴィエント

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習会に参加したりして、実践力を付けるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を定期的に行ったり、職員が毎日消防自主点検を行っている。今後は、地域の方にも避難訓練に参加して頂くよう予定している	年2回、日中及び夜間想定での消防・避難訓練を入居者も参加して実施している。運営推進会議において、自治会長を通して近隣の住民に働きかけ、「見守り」役としての協力を依頼している。また、全職員が継続的に普通救命救急講習を受講し、万が一の時に備えている。	夜間想定での消防・避難が日中に実施されたため、入居者が皆起きておりスムーズな避難ができたことに対して、消防署より「横になっている入居者を起こすところから訓練すべき」との指摘を受けた。次の夜間想定訓練では、実際に想定される状況に近い体制での訓練が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように言葉かけや対応をしていけるよう努めている	言葉遣いや声掛けの仕方を注意するよう施設長と管理者が指導している。職員同士も互いに気をつけて声を掛け合う関係づくりをしている。また、眠れない入居者に対しては寄りそうことによって自然な睡眠を促し、安易に薬に頼らない介護を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけに気を配り、指示ではなく自己決定が出来るように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく一人ひとりのペースを大切にして希望にそって過ごしていけるよう支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様にも協力して頂いて、おしゃれし母の日や父の日には記念写真を撮るなど支援に努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お米とぎや野菜の皮むきなど一緒に準備している。行事食やおやつなども一緒に作っている。(しもつかれ・クッキー・おはぎ等) 食事と一緒に摂っている	節分の豆で郷土料理である「しもつかれ」を作る際には、鬼おろしで大根をおろしたり大豆の皮むきを入居者が手伝っている。入居者の誕生日には、赤飯やいなりずしなどその人の好物を昼食のメニューに取り入れて皆でお祝いをしている。また、移動販売のラーメンを食べるなど趣向を凝らし、食を楽しむ取組みをしている。	

グループホーム ヴィエント

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表や排泄表に細かく記入して、体調管理に努めそれに応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをし異常が有る時には家族様に歯科受診を依頼している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツから布パンツに戻られる利用者様もいらっしゃる自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導などの取組みによりリハビリパンツから適宜パッドを使用しながら布パンツに戻すことが出来た入居者もいる。その場合でも、夜間は睡眠の確保を優先し、時間になったからと言って定時のトイレ誘導で入居者を起こすことはしないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、飲食物の工夫をして便秘解消に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事が重なる時には、午後を午前に行うなど配慮があるが個々の能力に応じた入浴支援に努めている	週3回、午後に入浴を実施している。肌の弱い入居者もいることを考慮し入浴剤などは使用していないが、菖蒲湯やゆず湯等季節ごとに入浴を楽しんでもらう工夫をしている。また、現場で介助する職員の気付きによる提案で、浴室内の手すりが増やされ、入居者がより安定して安全に移動できるようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静かな環境づくりに努力し安眠できるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の管理に気を付けていますが、誤薬の危険を避けるためにダブルチェックをし、服薬時に入居者様と一緒に名前と日付と時間を声に出して確認している		

グループホーム ヴィエント

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事食を食べたり、ドライブに行ったり等一人ひとりの生活歴を活かし、気分転換を図るよう支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣や花見やもみじ狩り、りんご狩りに出掛けている。また、入居者様のご希望で近所の食堂に外出に出掛けている	季節ごとの花見や紅葉狩り、皆で出かける外食など外出の計画を数多く実施している。個々の入居者に対しては、近所のコンビニエンスストアにお菓子を買いに行ったり、「ラーメンを食べに行きたい」という希望で、散歩コースにあるラーメン屋に協力を依頼し、皆でラーメンを食べにいく機会を設けるなどしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員がしているが、一緒に買い物に行き希望の物を選んでいただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはないが、電話でのやり取りは行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度の調整に心掛けるに努めている。お正月、七夕、クリスマスなど季節感がある飾りを壁などに採りいれている。また、テレビや畳やソファ等を配置しくつろげるように努めている	2月末の訪問調査時には玄関に雛段が飾られ華やかで季節感があつた。食堂兼居間には大きな窓があり外の様子がよく見え、天窗もあるため明るい空間となっている。壁には行事の毎の楽しそうな写真が飾られている。居室前の廊下には電球色の照明が施され、温かい雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席を変えたり、自室でゆっくり休んでいたできるように支援に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物を飾っていただいたり、使い慣れた物を持ってきて頂いたり、ご家族の写真飾ったりしている	居室にはすべて掃き出し窓があつて日当たりがよく、緊急時の屋外避難にも適している。部屋の入口に掛けられた花の写真が入ったプレートには職員手作りの折り紙の花が添えられている。ある部屋の扉の内側には入居者の名前が大きな文字で示され、間違いを防ぐとともに入居者がここは自分の部屋なのだという安心感に繋がっている。	掃き出し窓には安全のために高い位置に開閉レバーが取り付けられている。緊急時の避難の際に素早く窓の開放ができるように、訓練を積み重ねるよう期待したい。

グループホーム ヴィエント

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事を活かし常に見守っていくように努めている。安全な環境作りに努めている		